

癌の病巣部からの悪臭対策の一例

南病棟 6階：小幡 礼子

1. はじめに

終末期を迎えた患者はベッド上での生活を余儀なくされるために、何らかの不快な臭気を発することが多い。私達は、ある患者の癌病巣部からの悪臭を体験して悪臭の周囲におよぼす影響が予想以上に大きいものを感じた。柿川が調べた末期癌患者が感じる苦痛の種類と割合では痛みが1位、そして悪臭は20位で、悪臭は順位としては低い(図1参照)。これは、長い間悪臭に接していると、順応や慣れのあることで悪臭に対して嗅覚が鈍麻になることと、私達の悪臭に対する意識がまだ低いために取組みが遅れてることが原因と考える。

今回私達の経験したオキシドールによる瘻孔洗浄は悪臭対策に良い結果を得たので報告する。

2. 症例紹介

患者：60代 男性

病名：前立腺肉腫

入院経過：1993年7月に入院。直腸，膀胱，前立腺摘出。人工肛門，人工膀胱を造設した。10月頃から通常排泄物の糞便とは異なる悪臭のする分泌物が肛門から出はじめた。1994年1月腹膜炎を併発。腹腔ドレナージの手術を行った。その後DIC(血管内凝固症候群)を併発，全身の出血傾向がみられた。臭気も次第に強くなり個室に移った。腹壁に瘻孔を多数形成し，悪臭を放つため，患部を防臭布で覆ったり，人工肛門用のパウチを貼り，寝具を防臭シートで覆うなどしたが，悪臭は病棟内に充満した(図2参照)。

1994年3月，患者は死亡した。

3. 脱臭方法とその効果

(1) イソジン液による死腔洗浄

MRSAによる死腔感染に対して感染巣をイソジン液にて洗浄したが，洗浄後も強烈な臭気は変わらず，脱臭効果はなかった(図3参照)。

(2) オキシドールによる瘻孔洗浄

1.5%程度のオキシドールを約20ml，注射器に吸って，下腹部の瘻孔にゆっくり流して洗浄した。その結果，脱臭効果があった。臭気は強烈な臭気(5)から無臭(0)になった。ただし，時間の経過とおもに臭気ももどるため一日一回，この洗浄を行なった。

(3) オキシドールによる口腔ケア

1.5%程度の薄めたオキシドール20mlを口に含ませ吸引した。これを2～3回行ったところ，血液で汚れ，生臭い臭気を漂わせていた口腔内がきれいになり臭気がとれた。臭気は強烈な臭気(5)から，かすかに感ずる(1)程度になった(表1参照)。

4. 考 察

癌の病巣部からの悪臭対策にオキシドール液の洗浄は非常に効果があった。多くの場合、悪臭を放つ原因菌は嫌気性菌による感染が多い、と言われているので、医師と相談して臭気をとる目的でオキシドールを用いた。通常、嫌気性菌による感染巣からの悪臭対策には直接酸素を流すか、感染巣を開放にして酸素が十分通うようにするのが望ましいが、この症例では膿様分泌物が流れ出たので病巣部を解放にすることはできなかった。その点オキシドールの洗浄は、病巣部に酸素を十分与えることになり、洗浄した後、パウチを貼って密閉しても一日一回、洗浄すれば防臭効果が十分得られた。

口腔ケアも同様に行ったが、口腔内にこびりついていた血液や痰が簡単にとれて、口臭も消失した。

悪臭がとれると患者に笑顔がみられ、医師や看護婦も頻繁に患者のベッドサイドに行くようになった。これは癌患者のペインコントロールができた時の現象とよく似ている。痛みやかゆみなどは、患者は何かして欲しいと訴えることができる。しかし、臭いの場合、それが自分の体から発しているものであれば患者はひたすら我慢するしかない。又、周囲に迷惑をかけているのではないかと気が滅入ることも多く経験する。その結果、患者は人と逢うのを避け、みじめな気持ちになる。

一般に、悪臭が人体に及ぼす影響は、よいにおいは呼吸を深くし、悪いにおいをかぐと反射的に呼吸を止め、よいにおいでも濃度が高くなると悪臭に変化し、呼吸が完全に停止するといわれている。このことから私達は悪臭につながるにおいを敏感に感じとり、これらを見すごしてはならない。

ナイチンゲール²⁾は看護の基本の第一に、換気と暖房が大切であるとのべ、ヘンダーソン³⁾も看護の基本の第一に患者の呼吸を助ける必要性をのべている。私達は、わずかでも存在する不愉快な臭気などはたえず、注意を払い、患者さんにとって心地よい環境を常に整えなければならない。

5. 結 論

今回このケースでは取り組みが遅れたが、嫌気性菌に対するオキシドールを用いた防臭対策は効果があった。

参考文献

- 1) 柿川 房子；看護白書，日本看護協会出版会，81—90，1990.
- 2) フローレンス・ナイチンゲール；看護覚え書，現代社，21，1974.
- 3) ヴァージニア・ヘンダーソン；看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，30，1974.

表1 においについての尺度
(Katzら 1920)

においの強さ	説明
0	無臭
1	非常にかすかににおう
2	かすかににおう
3	容易に感ずる
4	強いにおい
5	非常に強いにおい

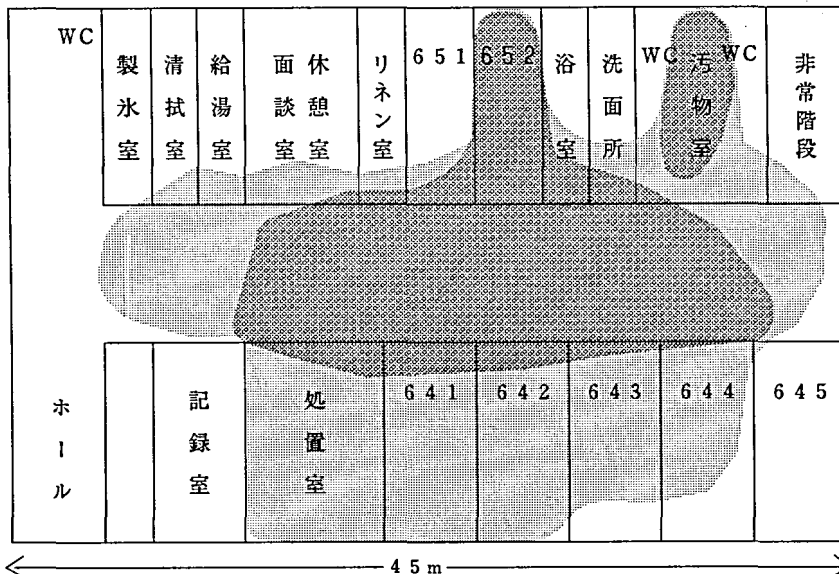


図2 悪臭を感じた範囲

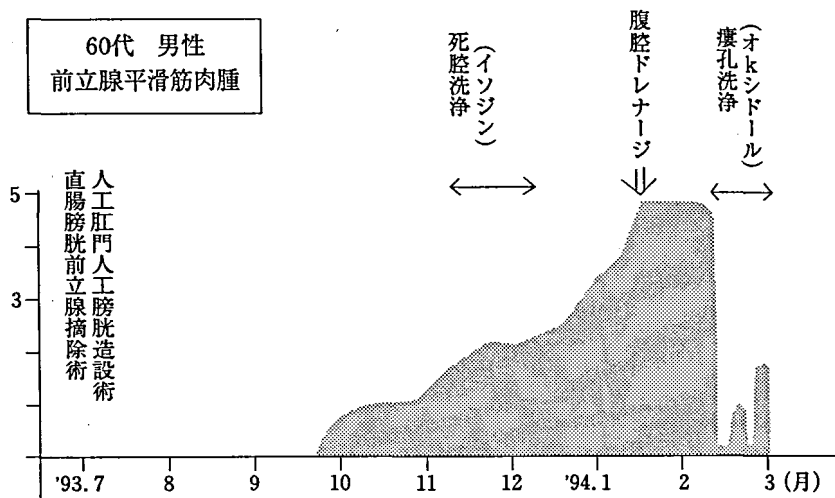


図3 処置と臭気の種類

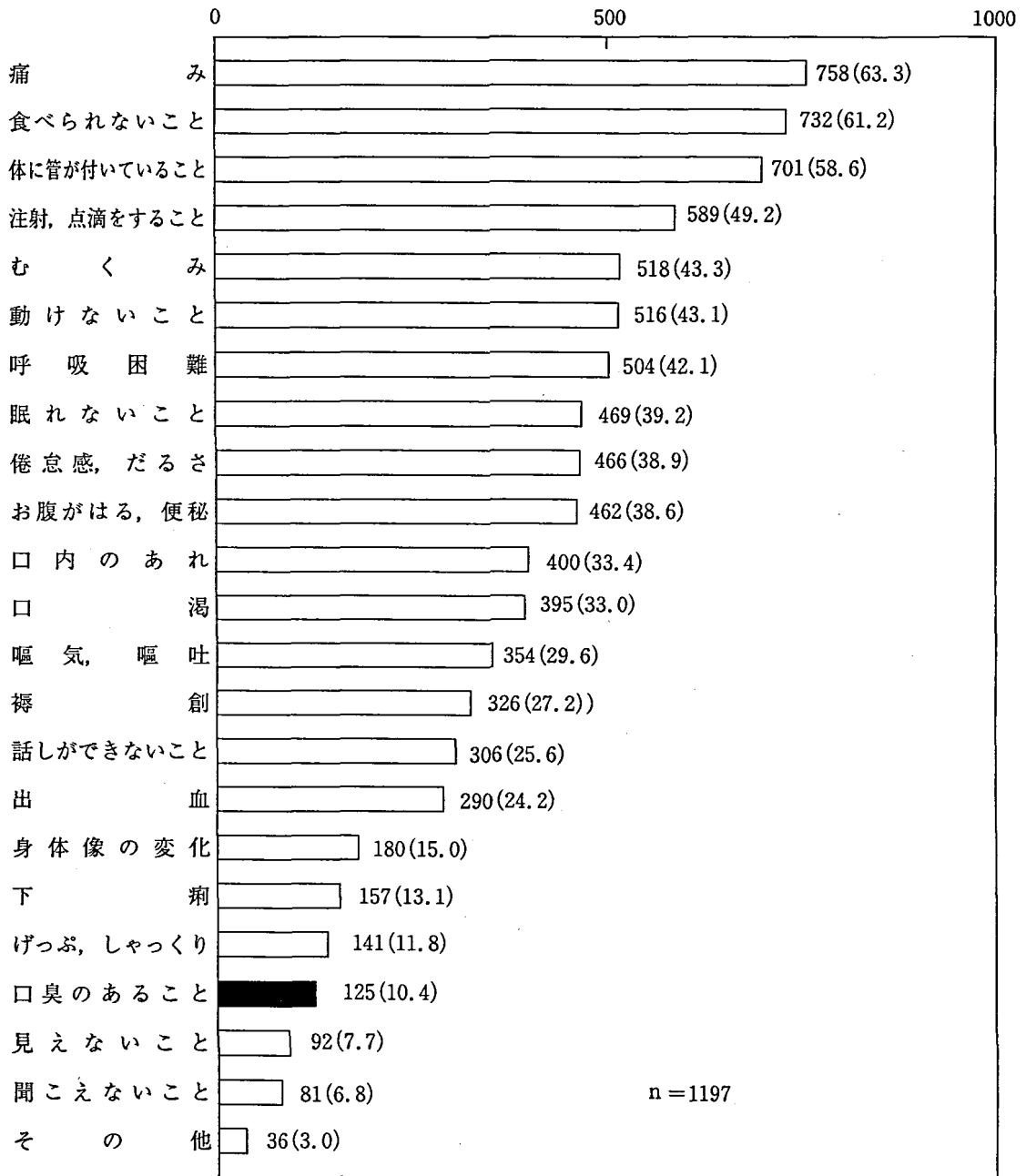


図1 患者はどのような点に苦痛を感じていたか